武豊町児童生徒の 第31回 意見発表会

▶問合せ　役場学校教育課

11月2日(金)に、武豊中学校で「児童生徒の意見発表会」が行われました。応募総数1,694点の中から、見事優秀賞に選ばれた6人が日々の生活での気づきや喜びについて書かれた作品を発表しました。今回は、その中から代表で2人の作文をご紹介します。

優秀賞

大切なもの
武豊小6年
丸尾　琉惺

「ありがとう」を伝える
衣浦小6年
服部　泉

ぼくが未来に望むこと
富貴小6年
深谷　亮太

お母さんがくれた宝物
緑丘小6年
中川　芹華

母の笑顔
武豊中3年
山本　ひかり

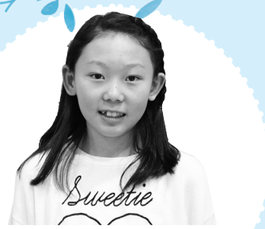
側にいてくれる人を大切に
富貴中3年
安斎 美郁

優良賞

竹内　陽菜(武豊小6年)　酒井　愛瑠(武豊小6年)
向澤　実優(衣浦小6年)　森　和花(衣浦小6年)
川辺　壮馬(富貴小6年)　亀井　琴音(富貴小6年)
ヒメネス琉捺(緑丘小6年)　片瀬　由理(緑丘小6年)
津山　結衣(武豊中3年)　森田　那月(武豊中2年)
松本　怜華(武豊中2年)　継岡　梨乃(富貴中3年)
田中　萌(富貴中3年)　椴山　心彩(富貴中2年)

入　賞

瀬戸　蓮慈(武豊小6年)　中野　歩美(武豊小6年)
夏目　愛理(武豊小6年)　伊藤　舜祐(衣浦小6年)
木全　柚葉(衣浦小6年)　新美　心晴(衣浦小6年)
新美　綾香(富貴小6年)　太田　悠稀(富貴小6年)
杉本　蒼真(富貴小6年)　岩田　知大(緑丘小6年)
小笠　千夏(緑丘小6年)　鈴木　彩音(緑丘小6年)
石橋　唯(武豊中3年)　峯　ののか(武豊中1年)
藍田　乙花(武豊中1年)　奥野　文音(富貴中2年)
森　蕎楽(富貴中1年)　三木　悠汰(富貴中1年)



お母さんがくれた宝物

緑丘小6年　中川（なかがわ）　芹華（せりは）

私のひいおばあちゃんは、今年で百三才になります。今は、鹿児島県のフラワーホームという老人ホームで暮らしています。ひいおばあちゃんが百才になったときに、私は、フラワーホームにお祝いに行きました。その日は敬老の日だったので、たくさんの人が集まっていました。

中へ入るととてもにぎわっており、地元の子供たちもたくさん来ていました。ひいおばあちゃんの部屋へ行くと、元気に待っていてくれました。私たちはひいおばあちゃんが百才になると聞いていたので、家族で「百」と書いてある花を花屋さんで作ってもらいました。私はそのとき、ファンルームという手芸にはまっていたので、ファンルームで花を作り、首飾りを作ってあげました。それをひいおばあちゃんに渡すと、「まあ。かわいいね。」と喜んでくれました。私もうれしくなりました。その後、ひいおばあちゃんは、首飾りをかけて広い会場に行きました。そして私たち兄弟はひいおばあちゃんに舞台の上で「おめでとう。」とお祝いの言葉を言いました。少しきんちょうしたけど、その時のことはひいおばあちゃんとの一番の思い出です。

ひいおばあちゃんには家があり、私は鹿児島に行くと、いつもその家の外でバーベキューや花火、綱引きなど、親せきのおじさんやおばさんと一緒に遊んでいます。とても親切にしてくれて、私は「鹿児島に来てよかった」といつも思います。

フラワーホームでのひいおばあちゃんの部屋には賞状があり、そこには「安部晋三内閣総理大臣」と書かれていました。疑問に思ったので、お母さんに聞くと、「百才になると、総理大臣から賞状と記念品と盃がもらえるんだよ。」と言われて、私は、「百才まで生きたいな。ひいおばあちゃんと同じくらい長生きしよう。」と決めました。そのことがきっかけで「命を自分から無だにしないようにしよう。」と心に思いました。

ネットやテレビなどで、交通事故で死亡、水の事故で小学生が亡くなった、ゆうかいで人が殺害されたなどのニュースを見ることがあります。その中でも自殺をしたというニュースを見ると、心が痛みます。いじめを受けて自殺をしてしまった子をいじめていた子が殺したのと同じだと思うけど、いじめていた子も何かあったのかとどちらも心配になります。私はいじめる方にもいじめられる方にもなりたくありません。どちらになっても人生は変わってしまうと思うからです。そのためにも私は、人に対していやだと思うことや、いやな気持ちになるようなことは絶対にしないようにしたいです。

私は作文を書いていて、あらためて「命を無だにしないためにはどんなことを心がけていけばいいのだろう」と考えました。命のことを考えるのは少し難しかったです。でも命は一人に一つしかない、産んでくれたお母さんからもらったとても大切なものです。なくしてしまうと家族は悲しむと思います。一度命をなくすと、二度と返ってきません。きっと長生きをするとたくさんの楽しいことがあると思います。でも、その中には、つらいことも少しはあります。私も十二年間の中だけでもつらいことは少しはありましたが、楽しかったことの方がたくさんあります。長生きすると楽しいことがたくさんあることをひいおばあちゃんから学びました。私はひいおばあちゃんみたいに、それよりもっと長生きしたいです。

私にとって命は、お母さんがくれた宝物です。その命は自分で守っていかなければなりません。楽しかったり、うれしかったりするときがあると、「生きてよかった。お母さん、生んでくれてありがとう。」そんな気持ちになります。これからも命の大切さを伝えていきたいです。そして、長生きをする人が増えるといいなと思いました。

母の笑顔

武豊中3年　山本（やまもと）ひかり

私の母は手が少し不自由です。とは言っても、生まれつきというわけではありません。昔、けがをしたため今でも指が三本動きません。ですが、何回も手術をしたおかげで、今は普通に家事ができます。でも、やはりけがをする前と比べると不便なこともたくさんあります。例えば、ペットボトルのふたが開けにくい、ひもがうまく縛れない、ものがつかめない、字が上手に書けないなどです。けがをしたのが利き手であったため、他にも不便なことが多いと言っていました。手術をすると、一週間手首から包帯で固定するため家事ができません。だから、家族で分担して家事を行います。主に、父が洗濯、姉が皿洗い、弟がお風呂掃除、そして私が夕食づくりです。初めの二日は夕食づくりも他の仕事も楽しかったです。しかし、三日目からは面倒に感じることが多くなりました。そのたびに母は私に、「ごめんね。」と言ってきました。別に私は謝ってほしいわけではありませんでした。でも、そう言われると自分がいじわるしたみたいな気がして嫌な気持ちになりました。また、母をお風呂に入れてあげるのも私の仕事でした。母は包帯が濡れないように手にビニール袋をかぶせるため、自分でお風呂に入ることができませんでした。

ある日、私は見たいテレビがあと三十分で始まることに気づきました。その日にかぎって三時間スペシャルでした。どうしよう。このままいつもみたいに入っていたらテレビの時間に間に合わない。だからといって全部見終わってからだと、寝る時間が遅くなってしまいます。私はしぶしぶテレビを見ることを諦めることにしました。その後は何となく母と気まずくなり、特に言葉を交わすことなく寝ました。翌朝、母と顔を合わせづらいなと思いながらリビングに行くと、母はいつものように「おはよう。」と声をかけてきました。昨日の気まずさが嘘のようでした。そのとき私は、自分が恥ずかしくなりました。「なぜ、あんな小さなことで怒っていたのか。」今思うと不思議でたまりません。顔を上げると、そこにはいつもの母の姿がありました。いつもの母の笑顔です。とても安心できる顔です。そのとき私は気づきました。今まで私はこの笑顔に支えられてきたということを。学校で嫌なことがあったとき、テストの点数がどうしようもなく悪かったとき、風邪を引いたとき。いつも励ましの言葉とともにあったのは、この安心できる笑顔でした。母は本当にすごい人です。

果たして私は、母がけがで困っているとき、笑顔で接することができていたでしょうか。母は私の顔を見て安心できていたでしょうか。とてもできていたとは思えません。母はこんなにも私を支えてくれているのに、こんなにも私を助けてくれているのに、私は何もできていませんでした。そんな自分がたまらなく嫌になりました。「今からだって遅くない。これからは私が母を支えなければ。」そう思いました。しかし、思っているだけではだめです。行動をしなくてはいけません。「まず、何からやればいいんだろう。」と悩んだ末、姉に相談してみることにしました。私と姉は歳が離れていますが、仲がよく、二人で遊びにいくことがあるほどです。母の次に私を気にかけてくれる存在です。相談したら、当然のような顔をしながら、「自分がされて嬉しいことをするだけ。」と言われました。私が母にされて嬉しいことは、あの安心できる大好きな笑顔で話しかけられることです。「そうか、私も母に笑顔で接すればいいんだ。」そう思いました。私はずっと肉体的に支えることしか考えていなかったけれど、それだけが支えるということではないのです。母は私を精神的に支えてくれた。だから、私も同じことをしてあげればいいんだと思いました。母のけがをきっかけに私はとても大事なことに気づくことができました。母には感謝しかありません。これからもたくさん迷惑をかけるかもしれません。助けてもらわないといけないこともあるかもしれません。でも、その時は私も、母がしてくれた何倍もの力で支えてあげたいと思います。安心してもらえるようなあの笑顔で。

お母さん今まで本当にありがとう。これからもずっとよろしくお願いします。